

ねらい	協力しながら課題に取り組む中で、人と関わる楽しさを味わうことができるようにする。		
教科・領域	PTA 活動	時間	90 分間
対象	小学 4 年生・保護者	人数	56 人（児童 29 人・保護者 27 人）
活動の流れ	活動名	概要	○留意点 ●指導者の視点
	ウェスタンじゃんけん	○2人組でじゃんけんをする。グー、チョキ、パーではなく指の数で0～5を表し、たし算をして早く答えた人の勝ち。	●誰と関わっているか、関わりを広げようとしているか。 ●男女の関わりは見られるか。 ○慣れてきたら引き算・かけ算にも挑戦する。 ●エラーを楽しむ雰囲気があるか。 ○エラーを楽しむ気持ちが失敗を恐れずチャレンジする土台になる。 ○慣れてきたら①言われた言葉と逆の言葉・動きをする。②言われた言葉と同じ言葉・逆の動きをする。
	前後左右 (4方向ジャンプ)	○親子が隣り合うように全員で輪になり隣同士手をつなぐ。指導者が「右」と言ったら、全員で「右」と繰り返しながら一歩右に跳ぶ。同様に前後左右テンポよく繰り返す(アクティビティ集参照)。	○ビーチボールに近付き過ぎると体に当たってしまうため、一定の距離を保つよう声を掛ける。 ○玉入れの玉が顔に当たらないよう、下方向に投げるよう注意する。
	流星雨	○玉入れの球を投げ当ててビーチボールを動かす。児童対保護者で相手のゴールラインを超えたら得点となる(ビーチボールに直接接触することはできない)。得点したら中央から再開する(アクティビティ集参照)。	○羽に注目し過ぎて他のグループの接触しないよう、しっかり距離を開けさせる。 ●メンバーがそれぞれどんな役割を果たしているか。 ●エラーが起こった時に、どんな声掛けがあるか。 ●エラーをどのように修正しながら取り組んでいるか。 ○活動への参加が一部の人に偏る場合は、スタート時の順番を最後まで守るようにする方法も有効。
	ふわふわ旅行	○スタートラインから、3人組で羽を落とさないようにゴールのフラフープに入れる(羽に直接接触することはできない)。ゴールの位置は各グループで設定する(アクティビティ集参照)。	
パイプライン	○15人程度のグループで一人ひとりが持っているハーフパイプを使って、ピンポン玉を落とさずゴールまで運ぶ(アクティビティ集参照)。 ・ピンポン玉を乗せている時は歩けない。 ・スタートしたらピンポン玉を直接接触しない。 ・途中でピンポン玉を落としたりしたらスタートから再開。 ・ゴールの位置やコースは各グループで決める。		

振り返り	○活動の中でどんな場面が楽しかったか。また、体験を通して日常生活に活かせるようなことはどんなことか。
準備物	玉入れの玉、ビーチボール、羽、フラフープ、ストップウォッチ、ハーフパイプ、ピンポン玉、バケツ（ゴール）
参加者の様子や感想	○大人と一緒に活動したことで、活動の切り替えが非常にスムーズだった。 ○パイプラインでは、玉の種類、コース、ゴールの位置を自分たちで設定できるようにしたことで、グループ間の対抗意識が芽生えず、それぞれのチャレンジに熱中する姿が見られた。
指導に係る気付き	○ふわふわ旅行については、各グループのコミュニケーションは活発だったが、全員で活動に取り組むことが難しい様子だった。みんなが参加できるようにするには、それぞれに役割が生まれるようなルールや制約を考える必要がある。